

古着支援プロジェクト



●第20回 2012年度 古着支援要項

2012年も以下の要項に従って古着を集めます。ご協力、よろしくお願ひいたします。送り先と受け付け期間を間違えないようお願いいたします。衣料品以外のものは対象外ですので御了解ください。

- 支援先(予定): タイにあるミャンマー難民キャンプ
- 古着の種類: とくに5才以下の幼児の衣類が必要です。子供と大人の衣類(夏冬ものすべて)ズボン、ティーシャツ、スカート、ワイシャツ、ジーパン、背広、トレーナー、ジャージ、カーデガン、セーター、コートなどタオル、シーツも可
- 古着の状態: 洗濯に出したものの、あるいは自分で洗濯してアイロンをかけたものにしてください。
- 古着の個数: ダンボール箱、6000個(40フィートコンテナ6台)

- ◎送り先: **140-0003 東京都品川区八潮 2-9 大井物流センター**
 ジャパンエクスプレス内 わかちあいプロジェクト Tel. 03-3790-9672
 (現地への持ち込み可、宅急便業者の選択は自由です)
- ◎受付期間: **2012年6月1日(金)～6月11日(月)**
 (この期間に到着するようにお送りください)
- ◎ダンボール箱の大きさ: 引越し用段ボール箱大の大きさまで(縦・横・高さの合計が1.5mまで)
- ◎送料募金: **ダンボール1箱あたり、1500円**
 (古着の寄付だけは受け付けていません。送料カンパを条件としています。また荷物と一緒にカンパを送られますと、そのまま現地まで送られてしまいます。ご面倒ですが郵便振替でご送金ください)
- ◎現地受入団体: **TBBC** (Thailand Burma Border Consortium)

2012年の募金目的と目標額

- 難民、国内避難民ほか支援 660万円
古着などのコンテナ費用
- ミャンマー・スーダン教育支援 120万円
- カクマ難民キャンプなど 120万円
- 東日本大震災支援 100万円

募金目標額 1000万円

募金の送金先

郵便振替口座
わかちあいプロジェクト募金
00130-7-762258

2011年わかちあいプロジェクト

収支報告書

2011.1.1～2011.12.31

前期繰越	3,347,233円
収入 ・・・・・・・・・・・・・・・・	
コーヒー等売上	34,829,595円
募金	5,835,746円
その他の収入	321円
貸付金戻り	805,490円
預り金	10,849円
収入合計	41,576,001円
支出 ・・・・・・・・・・・・・・・・	
コーヒー等仕入れ	15,278,341円
ミャンマー支援	80,050円
タイミャンマー難民キャンプ	1,667,063円
カクマ難民支援	683,675円
東日本震災支援	817,440円
その他の支援	246,438円
税金	284,300円
活動費	937,013円
人件費	3,472,371円
通信運送費	3,878,054円
事務管理費	5,701,180円
貸付金	584,504円
預り金納付	169,768円
支出合計	41,201,437円
繰越金	3,721,797円

会計 網信幸

ご支援ありがとうございました。



わかちあいプロジェクト

フェアトレードは世界の豊かさを分かちあい共生する経済のしくみです

わかちあいプロジェクト



繋がりの中で 生かされる

松木 傑

わかちあいプロジェクト代表
 聖パウロ教会牧師

3月11日の大震災、世界各地から心配とお悔やみのメールが届きました。ありがとうございます。(17カ国から25通、2011年3月16日現在)

キリギスタンの綿の生産者のなかには、被災者を自宅に受け入れていとう申し出までありました。

私が属していますルーテル教会では救援対策本部の会議が3月18日に開かれ、何を購入するか話し合い、米5トン、インスタントラーメン(うどん)1万食、缶詰めなどを購入し、トラックで被災地に送ることをきめました。翌日19日、フェアトレードの関係で長年の知り合いであるイオンの方を通して発注し、3月28日と4月11日、4トン、トラック6台分を被災地に届けることができました。わかちあいプロジェクトも支援に加わりバナナ4トン、ドリップパックコーヒー、7000パック、紅茶7000袋など 寄付させていただきました。

次の課題は、皆さまからの支援物資と購入した物資をどこに届けるかということです。普通は、県や市に届けますが、

1992年にソマリアの救援活動に参加して、当時のルーテル世界連盟・世界奉仕部のナイロビ事務所が取りこんでいた支援の仕方を思い出し、他のNGOを通して支援することを考えました。

そこで「物資輸送プロジェクト」をジャパン・プラットフォームと国際協力NGOセンター、それに日本キリスト教協議会の3団体に呼び掛けて、3月22日と4月8日に説明会を開きました。予算が続く限り、求められるものは何でも購入し、道があるところにはどこにでも運ぶという、ことを原則としました。被災地に物資を運ぶ免許を取得している運送業者、物資を保管する業者との協力関係もできていました。

その結果、シャンテ国際ボランティア会(気仙沼市)、ICA文化事業協会(巨理郡)、パレスチナ子どもキャンペーン(岩手県大槌町)、国際ボランティアセンター山形(石巻市)などすでに被災地に拠点をおいて活動しているNGOとの関係を築くことができました。



2011年古着支援にご協力くださりありがとうございます。3951箱が寄せられました。タイのミャンマー難民キャンプに支援いたしました。

わかちあいプロジェクトNEWS 27
 2012 JANUARY (年1回発行)
 編集・発行 / 松木 傑
 デザイン / Design Convivia



わかちあいプロジェクト

130-0022 東京都墨田区江東橋 5-3-1

電話: 03-3634-7809

FAX: 03-3634-7808

郵便振替口座: わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258 (募金用)
 わかちあいプロジェクト 00180-6-758331 (代金支払用)

フェアトレードと被災地 宮城県石巻市 タン スワン国際協力の会

千葉直美

別れは突然やってきました。そして新しい出会いと再会も同時に突然やってきました。

東日本大震災で、石巻も壊滅的な被害を受けました。2011年3月11日、たかさんの命が、さよならも言えずに私の生活から去っていきました。あまりの衝撃に茫然として、しばらく過ごしていると、その電話は鳴りました。「石巻に来ました。」以前、フェアトレードのコーヒーを通じて知り合った遠藤さん（ルーテル教会救援）でした。

私は女性の仲間達と「スワン国際協力の会」を通じて、フェアトレードを数年前から紹介しています。2010年には、



被災者のかたと共に、左、千葉さん

インドネシアのコーヒー農園を訪れました。今回、いち早く、その生産者からお見舞いの連絡をいただき、人の輪が世界に広がっていることを実感しました。

この震災で、私達は、人は一人では生きていけないことを身にしみて体験しました。水も電気もガスも無かった日々、たき火をみんなで囲んだり、水を分け合ったり、一本のロウソクの周りで一緒

に食事もしました。どこで入浴できるか、どこで炊き出しがあるかといった情報の交換も。「スワン国際協力の会」は、ルーテル教会救援の支援を受けながら、心のケアとして、お茶席や活け花の教室、コンサート、キャンドル作成を開催しました。気持ちが癒されるようにと、日本中、世界中の見知らぬ方々から寄せられるお花も届けています。石巻のフェアトレードの賛同者のほとんどが被災しましたが、そんな彼女達と共に力を合わせて行動しています。震災後の生活では、太陽のぬくもり、土の優しさを強く感じました。地球環境に配慮し、かけがえのない自然と共に、いかに生きていくかが問われています。

フェアトレードの精神が培ってくれた気づきを生かして、人と自然に優しく、世界の仲間がお互いに支えあっていく生き方を考えながら、この被災地で活動していきたいと思っています。

それは、いつもフェアトレードコーヒーを買ってくださっていたお客様です。個人でたくさんのコーヒーを購入してくださっていたのでよく記憶していました。そして宅急便の住所を書くたびに「宮城県石巻市」と書いていたので石巻市在住であることも知っていました。その方は千葉直美さんという、今では私たちの支援活動の大事なパートナーとなっているスワン国際協力の会の代表をしていらっしやいます。

宮城に到着後、いの一番に千葉さんに連絡。被災一ヶ月後のまだ混乱期の中でお会いすることができました。聞くと、ご自宅は津波の被害はなかったものの、勤め先が避難所になったため1週間も家に帰れずキャンパスに滞在して避難所運営の補助をしていたそうで、またたくさんのお友人が被災したとのことでした。

千葉さんとお会いしていろいろお話する中で、「女性のケア」が重要であることを確認しました。

フェアトレードで つながる被災地支援

遠藤優子 ルーテル教会救援スタッフ



アメリカの報告会の遠藤さん

私はあの震災が起きた1か月後の4月からルーテル教会救援という被災地支援団体の現地スタッフとして活動しています。震災後すぐは被災地の悲惨な状況をメディアで見ながらも自分に何ができるのか全くわかりませんでした。

そんな私に被災地で活動するきっかけを作ってくれたのは、インドネシアのフェアトレードコーヒーでした。そして、被災地での支援の輪を広げてくれたのもフェアトレードコーヒーでした。

前職のアジア学院（栃木県西那須野市）では、わかちあいプロジェクトのインドネシアフェアトレードコーヒーの販売担当をしていました。その関係で松木先生とはやりとりがあったのですが、その

松木先生から震災後、「ルーテル教会救援で被災地にいける現地スタッフを探しているけれども行くことはできないか?」とお声をかけていただき、急遽支援のために宮城県に行くことに...

駆けつけたのはいいのですが、全く初めて行く土地で何をどう支援していいのかわからず右往左往しておりました。ただ、私にはたった一人知人がいました。

北ルソン山岳地方でのコーヒーの アグロフォレストリー栽培の取り組み



発売中のフィリピンの
コーヒー KAPI TAKO

訓練中のメンバーたち

コーディネエラ・グリーン・ネットワーク (CGN) は、フィリピン島北部・バギオ市に拠点を置く環境NGOです。コーディネエラと呼ばれる山岳地方に暮らす先住民族の暮らしの向上と自然環境保全を目的に2001年に設立され、コミュニティに根差したさまざまな活動を行ってきました。

中でもアラビカ・コーヒーのアグロフォレストリー栽培は私たちの活動の中心となっています。アグロフォレストリー栽培というのは、農業（アグリカルチャー）と林業（フォレストリー）を組み合わせた栽培方法で、一つの土地に単一の種類ではなく換金作物を含むいろいろな種類の樹木や作物を植えるというもの。CGNでは、2003年のベンゲット州キブガン町サグパッド地区での植林事業を皮切りに、キブガン町パナ地区、カバヤン町、トゥブライ町、イフガオ州ハパオ村、バランバン村、マウンテン州カダクラン村で、アグロフォレストリーによるコーヒーの栽培を行ってきました。今までに植えた苗木の本数は52,125本になります。

植樹地では、もともと生えているベンゲット松などの樹木をそのままに、成長の早いアルノス、マメ科で土地を肥やす役割を果たすカリエンドラなどの木を植え、その合間にアラビカ・コーヒーの苗木をたっぷりの堆肥と共に植えます。コーヒーの木が育ち、日陰を作るようになると、その根元にしょうが、ウコン、サトイモ、ウベ（ムラサキイモ）などを増え、限られた土地から複合的に収入が得られるような農場を作っています。

山岳地方での森林破壊の主な原因は、森

林を畑にするための人為的な火入れによる山火事です。貧しい先住民族は現金収入を得るためにやむを得ず森林に火を放ってきたのです。アグロフォレストリー栽培では、森林を生かしながら同時に収入を得ることができます。環境保全と収入向上、この二つの目的を同時に達成できるのです。

CGNがコーヒーをアグロフォレストリー栽培での換金作物として薦めているのには次に挙げたような理由があります。

- コーディネエラ山岳地方が気候的・地理的においしいアラビカ・コーヒーの栽培条件を満たしていること。
- 伝統的に、多くの先住民族がコーヒーを飲む習慣があるため、家庭用のコーヒーの木の栽培の経験がすでにあり、コミュニティの誰にでも容易に栽培できること。
- コーヒーが嗜好品であり、先住民族の特産物として知られる赤米などと違い、販売しても住民の食糧不足にはつながらないこと。
- コーヒーは、収穫後、適切な加工と乾燥を行い生豆の状態にすれば保存がきき、栽培地が山奥深くに位置して自然災害などによって道路が寸断されることがあっても、鮮度が命の野菜栽培と違って経済的な損失が少ないこと。
- コミュニティにあるコーヒーの木から種を採取し栽培することができ、外部から種を持ち込まなくてすむので生態系に影響を及ぼさず、また資本がなくてもだれでも栽培を拡大できること。
- フィリピンでは年間35万トンほどのコーヒーを輸入しており、国内需要も高いこと。
- もともとコーヒーを飲む習慣があるため、

反町眞理子



CGN代表の
反町さん

余剰生産物、低品質の生産物に関しては、地域のマーケットでの販売も可能なこと。

CGNが2003年にアラビカ・コーヒー栽培指導を始めたのと同じころに、政府の天然資源省、農業省、また、ベンゲット州国立大学でも、同じように栽培指導を始めています。いくつかの町では、コーヒーを一町一品運動（フィリピンではOne Town One Product=OTOP）の品目に選び、町を挙げて小規模農家の栽培に協力するところも出てきました。コーヒーは、コーディネエラ地方の自然と先住民の暮らしを守るための切り札として大きな注目を集めています。

コーヒーの木が初めての実をつけるのは苗木を植えてから3年目が4年目。CGNの指導で過去に植えてきた苗木の中には成長し、すでに収穫が始まっているものもあります。栽培農家の方たちが今直面している問題は、収穫したコーヒーの果実の加工方法です。コーヒーの実を、海外に輸出できる高品質の生豆に加工するには、それなりの手間と知識が必要です。CGNでは、栽培指導と同時に、収穫後の加工や乾燥の方法に関する指導も行っています。そして、大事なことは、そのコーヒーの販売によって栽培農家の人たちの暮らしの向上にきちんとつながること。CGNでは、「フェアトレード」に関する啓蒙活動も始めました。

わかちあいプロジェクトを通じて皆さんのお手元に届くコーヒーは、私たちがコミュニティの先住民族の栽培農家の人とともに試行錯誤しながら種から育ててきたコーヒー豆です。栽培、収穫、加工、流通、販売、それぞれの過程でまだまだ改良の余地はたくさんありますが、栽培農家の人と協力して努力を続けていきたいと思っています。